

1 大山高校が目指す学校像

(1) スクール・ミッション

「個性豊かな生徒の育成」「個性の伸長と自主精神の涵養」「社会性や公共心の育成」「真理と平和を愛し個人の尊厳を重んじる人材の育成」を教育目標とし、「哲学対話」といった特色ある教育活動を通じて、社会の各分野で活躍すると共に、社会貢献に取り組む生徒を育成します。

(2) スクール・ポリシー

ア グラデュエーション・ポリシー

教育活動全体を通して、次の(ア)から(ウ)を育成する。

- (ア) これからの社会で活躍していくための知識・技能・教養
- (イ) これからの社会を生き抜いていくための思考力・判断力・表現力
- (ウ) これからの社会で豊かな生活を送るための学びに向かう力、人間性等

イ カリキュラム・ポリシー

- (ア) 生徒の学習習慣の確立及び学習方法の定着を図り、希望進路の実現につながる進路指導を行う。また、組織的、計画的に言語能力の向上に取り組み、読書活動、探究活動を推進する。
- (イ) 生徒が分かりやすく、興味・関心を高めることができる授業を実践する。また、環境教育の推進を通して持続可能な社会の実現に貢献する態度を培い、すべての教育活動を通して心身の健全な育成を図る。
- (ウ) 1学年の数学・英語で習熟度別、国語の古典、体育、家庭科や情報などで少人数制授業を採用し、1クラス2展開の授業を実施し基礎学力の定着に努める。
- (エ) 1学年は共通履修で、各教科をバランス良く学ぶ。芸術科目は、複数ある音楽室や美術室を活用して実技の力を高める。2学年では文系理系の選択と2時間分の必修選択を設け、進路に向けた学習を充実させる。3学年では選択科目を週6～12時間分に広げ、各自の進路や興味に合わせた効果的な学習を行う。
- (オ) 「山高ゼミ」等の取り組みにより総合型選抜を活用した大学進学を推進する。
- (カ) 「哲学対話」を計画的に実施し、思考力を育成し、学力向上や進路実現につなげる。
- (キ) 7限を設置し、基礎学力の定着及び大学進学を目指した学力向上を図る。

ウ アドミッション・ポリシー

- (ア) 大学等に進学する強い意志をもっている生徒
- (イ) 学習に興味・関心をもち、深い学びを追求することのできる生徒
- (ウ) 部活動を3年間継続してやり遂げる生徒
- (エ) 生徒会活動や学校行事等に積極的に参加し、リーダーシップを発揮できる生徒

2 中期的目標とその達成に向けた具体的方策

「学び はじめる」から「学び つづける」へ

(1) 学習指導

【目標】

新学習指導要領を踏まえた、基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力・学びに向かう態度の育成

【方策】

- ①学校設定科目「基礎国語演習」「基礎数学演習」「基礎英語演習」により基礎学力の定着を図る（令和6年度学力向上研究校）。
- ②学校設定科目「発展国語演習」「発展数学演習」「発展英語演習」により四年制大学進学希望者に
対応した学力の向上を目指す。
- ③授業の質を上げるため、教員相互の授業見学や計画的な研修を組織的に推進する。
- ④全教員による、効果的にICTを活用した指導を推進する。

(2) 生活指導及び進路指導

【目標】

- ①社会性や公共心を育成するための生活指導の充実
- ②個に応じた進路指導の充実

【方策】

- ①(ア) 学びの基礎としての授業規律を確立させる。
 - (イ) 社会の変化及び生徒の変化に応じた生活指導の見直しを実施する。
 - (ウ) 必要に応じて繰り返し指導するなど根気強い生活指導を実践する。
 - (エ) 教職員の人権感覚の醸成と、生徒の人権意識の涵養による望ましい人間関係を構築する力を育成する。
- ②(ア) 「哲学対話」「山高ゼミ」を通して自己分析力及びプレゼンテーション力を向上させる。
 - (イ) 進路指導部を中心とした組織的な進路指導体制を確立・強化して、大学進学をあきらめさせない指導を実践する。

(3) 特別活動その他

【目標】

- ①部活動、学校行事その他授業以外の学習機会の充実
- ②応募倍率の向上

【方策】

- ①(ア) 部活動の活性化により、主体性、協調性を伸長させる。
 - (イ) 学校行事の運営に生徒の参加を促し、自主的、実践的な態度を育てる。
 - (ウ) 新たな教育活動を開発する。
- ②(ア) 教職員全員による募集・広報活動を実施する。
 - (イ) 学校見学会、学校説明会、体験授業及び部活動体験を企画・実施する。
 - (ウ) ICTを活用した新たな媒体での広報活動を実施する。

(4) 学校運営

【目標】

- ①全生徒の進級及び卒業

- ②学力向上研究校として個に応じた学習の支援
- ③服務事故の撲滅
- ④企画調整会議の機能向上及び各分掌・学年・経営企画室との連携による活性化
- ⑤教員の働き方改革の実現

【方策】

- ①(ア) 基礎学力の定着により、学力不振による中途退学を防ぐ。
 - (イ) 生徒に寄り添った生活指導を実践する。
 - (ウ) S CやY S W等の外部人材の積極的活用に組織的に取り組み、連携して相談活動を充実させる。
- ②(ア) 学校設定科目「発展国語演習」「発展数学演習」「発展英語演習」の充実を図る。
 - (イ) 外部人材を活用して個に応じた学習を支援する。
- ③(ア) サービス事故防止研修のほか、職員会議等の機会を通じてコンプライアンスの周知を徹底する。
- ④(ア) 分掌・学年間での緊密な情報交換により課題、提案等を共有化する。
 - (イ) 経営企画室と連携して、自律経営推進予算を有効活用する。
- ⑤(ア) 業務の効率化によりライフ・ワーク・バランスを推進する。
 - (イ) 相互に支援し合える環境づくりを進める。

3 令和6年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1) 学習指導

【目標】

- ①基礎学力の確実な定着
- ②四年制大学進学希望者に対応した学力の向上
- ③ICTを効果的に活用した学習の推進
- ④授業力の向上

【方策】

- ①(ア) 学校設定科目「基礎国語演習」「基礎数学演習」「基礎英語演習」を実施し、その成果を学期ごとに検証する。
 - (イ) 一人1台端末及び学習ソフトウェアを活用し家庭学習時間を増加させる。
数値目標：学習時間 60分以上/日の生徒 40%以上
 - (ウ) 補習・補講について、組織的に計画立案、実施する。
 - (エ) 予習プリント、宿題、小テスト等により自学自習の習慣を確立させる。
- ②(ア) 学校設定科目「発展国語演習」「発展数学演習」「発展英語演習」を実施し、その成果を学期ごとに検証する。
 - (イ) 補習・補講について、組織的に計画立案、実施する。
 - (ウ) 外部人材を活用した「山高ゼミ」を通して、3年間を見通したカリキュラムのもとで大学進学に向けた意識を高めるとともに、自己分析力や表現力、コミュニケーション能力を高める。
※2学期末までに、「山高ゼミ」の成果について検証する。
- ③(ア) 全教員が授業においてICTを効果的に活用する。
 - 数値目標：授業におけるICT活用実績人数 100%
 - (イ) 教職員研修センター等で開講される一人1台端末活用に関する研修等に積極的に参加して、

生徒が授業や自宅等で活用できる指導を実践する。

- ④(ア) 年2回以上、相互授業参観を行い、参加者は授業者に「自らの授業に取り入れたい点」と「自ら考える工夫する点」を伝える。

(イ) 教職員研修センター主催の研修や東京都教育委員会認定の研究推進団体協議会等に積極的に参加し、授業力の向上を図る。

(2) 生活指導及び進路指導

【目標】

- ①社会性や公共心を育成するための生活指導の充実
- ②生徒の安全の確保
- ③個に応じた進路指導の充実

【方策】

- ①(ア) HRや生徒会・委員会活動・部活動等を通じて、生徒自らが校内規律の維持に取り組む姿勢を醸成する。

(イ) 人権尊重の視点に立った生活指導を実践する。

(ウ) 校内規定の見直し及び効果的な指導方法を開発、実践する。

(エ) 全教職員の共通理解による協働した指導を実施する。

- ②(ア) 交通安全教育を充実させる。

数値目標：自転車乗用時のヘルメット着用率100%を目標とする。

(イ) いじめアンケートを年3回実施し、早期発見・早期対応に努めるとともに、未然防止のためのインターネット・スマートフォン等の適正な使用についての指導を計画的に実施する。

(ウ) 生徒の生命を守る技能の向上に向けて救急救命技能講習を実施する。

- ③(ア) 年2回以上、全生徒面談を実施し、生徒理解に努める。

(イ) 年1回以上の全生徒及び保護者との面談を実施し、進路希望を含めた家庭の状況把握に努める。

(ウ) 外部人材を活用した進路講演会等を実施する。

(エ) 進路指導部を中心に、大学進学希望者向け模擬試験を実施するとともに、各教科及び学年担任が参加する模擬試験分析会を実施する。

(オ) 出願書類指導、小論文指導及び面接指導を全教員で実施する。

(カ) 外部人材を活用した「山高ゼミ」の実施により、総合型選抜に向けた指導の充実を図る。

※2学期末までに、「山高ゼミ」の成果について検証する。

数値目標：大学・短大現役進学率 45%（令和5年度40.2%）

進路決定率：96%（令和5年度94.1%）

(3) 学校運営

【目標】

- ①全生徒の進級及び卒業
- ②服務事故の撲滅
- ③令和6年度学力向上研究校としての個に応じた学習の支援
- ④教職員のライフ・ワーク・バランスの実現

【方策】

- ①(ア) 「学びが楽しい！」と感じられる授業の実践により基礎学力を定着させ、学力不振による中

途退学を防止する。

(イ) 年3回以上の面談等の実施により、生徒理解を深め、「学びの継続」につなげる。

(ウ) 学年、養護教諭、自立支援担当教員と、SC及びYSWとの連携を深め、中途退学の防止に努める。

数値目標：中途退学者数 11名以下

②(ア) 年3回の服務事故防止研修を実施し教員としての使命を再確認する。

(イ) 体罰禁止、個人情報管理徹底等、個人情報の取扱いに関する体制を再確認する。

③(ア) 外部人材を活用した「山高ゼミ」「哲学対話」を教職員の共通理解のもとで実施し、生徒の自学自習の支援をする。

④(ア) 学校閉庁日の設定により、休暇取得を促進する。

数値目標：年休取得平均15日/年

(イ) 教職員本人の体調や家庭の事情等による「時差勤務申請」を承認する。

(ウ) 部活動指導員等の外部人材の活用による職務負担の軽減を図る。

(エ) 教職員休憩室を実動化させる。

(オ) 不必要な業務の洗い出し及び業務の効率化を進める。

(4) 特別活動その他

【目標】

①部活動、学校行事、その他授業以外の学習機会の充実

②募集広報活動の充実

【方策】

①(ア) 部活動の活性化に向けて、「文化スポーツ等特別推薦制度」導入の検討をする。

(イ) 熱中症対策を施した安全な体育祭を実施する。

(ウ) 感染症対策を講じた上で、コロナ禍以前の規模に近づけた学校行事の実施を検討する。

②(ア) 外部の学校説明会等を含め、学校見学会や学校説明会等、全教員が募集活動に参加、貢献する。

(イ) 学校見学会及び学校説明会への生徒参加を促進する。

(ウ) 体験授業及び部活動体験を実施する。

(エ) 学校ホームページの他、X(旧Twitter)、Instagram、TikTok、YouTube等を活用した情報発信を推進する。

(オ) 募集対策としての「文化スポーツ等特別推薦制度」導入を検討する。

数値目標：

応募倍率 推薦選抜 1.5倍 (R5 1.04倍)、分割前期募集 1.0倍 (R5 0.61倍)